



研究主題

より良い解を導き出せる子の育成
～少人数における対話的な学びの工夫を通して～

事後研の概要（3・4年）

研究内容1 ～より良い解を導き出す対話的な学びの工夫

- ①子ども同士の協議・討議の進め方を身につけさせる手立て
 - ・教師が話し合いに入り、一緒にまとめていく。
- ②自他の考えの共通点と相違点を理解させる手立て
 - ・結果の整理を行い、共通点や相違点をわかりやすくする。
- ③根拠を明確にして、他者の考えに対する自分の考えを表明させる手立て
 - ・自分の考えを発表するときに、理由を付けて発表させるようにする。

3年

- 理由付けをしながらの予想しているのがよかった。
- 話を聞くために待ったり、自分の意見を考えたりと、話し合いをしていこうとする様子が見られた。
- 予想しながら確かめようとしていたので、そのまま実験に入っても、子ども達だけで学習を進めていった。
- 予想は要らなかったのでは。実験をやりたい意欲が高かったので、そこを優先させてもよかった。
- 金属という言葉が分かっていたので、子ども達だけでまとめが出たのではないか。

4年

- 共通点と相違点を理解させるために、水と空気の実験を一緒にやらせていたのがよかった。
- 「押しちぢめられる」は理解できていないのでは。
- 手ごたえが出てこなかった。課題提示で空気と水がどうなったかに注目させてもよかったのではないか。

共通

- 普段の学習で素地を作っていたと思うので、しっかりとした話し合いができていた。
- 実験を一緒に再現することで、子どもの考えが整理されていてよかった。
- 実験の時間を確保することで、自分たちでまとめまでいったのではないか。
- キーワードをつかってまとめさせる方法もある。
- 教師と一緒にまとめていくのなら、みんなの考えをつなぐ役をする方法もある。

研究内容2 ～子ども同士の協議・討議を行うための基礎となる力の育成

①自分の考えをもち、まとめる力

- ・自分の考えを、根拠を明確にしながらノートに書く。

②筋道立てて発表し、疑問をもって聞く力

- ・発表後に共通点や相違点の確認し、質問する。

③話し合う力

- ・共通点や相違点をもとに、質問し合いながら話を進める。

④みんなの考えをまとめる力

- ・必要な言葉をつなぎ合わせながら、考えをまとめる。

共通

○理科の用語を確認しながら学習を進めていた。

○流れがスッキリしていて何をすればいいかが分かりやすかった。子ども達は安心して学習に取り組んできた。

○理科に必要な語彙はある程度知っていた。何か手立てがあったのか。

→あえて語彙を教える場面はないが、日々の生活の中で意識的に話したり書いたりする機会は与えている。

その他授業に関わって

○喧いあいながら、学びを深めることができていた。

●ワークシートや表などを活用して、実験の時間を確保すればよかった。

●それぞれに実験道具を準備してやらせる方法もあるのでは。

●ICTの活用を工夫しても良いのでは。 → この授業はなくてもいいのかな。

助言者より

・「押しちぢめられる」が出てこない。

→ 子どもの感じたことを適切な用語で教えることが大切になる。

・3年：比較する、4年：予想や仮説を表現する 学年相応の理科の力がついている。

・より良い解を導き出すためには、問題解決の過程が大切。自分で次に何をすればいいかを考えていくことが必要である。

・間違っただのはなぜか、友達とちがう結果になったのはなぜかを考えさせることも大切である。

・単元計画の中で、どこでどんな力を付けさせるのかを整理しておく。

・一人一台端末の活用 効果的に活用できる場面を単元計画の段階で考えておく。